

第6学年 社会科学学習指導案

1. 小単元名「条約改正プロジェクトを担った人々と日清・日露戦争～日本の国力は本当に高まったのか?～」

2. 指導観

- 子どもたちは、歴史的事象に興味・関心をもっている子どもが多い。前小単元までに追究してきた西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允を中心とする明治政府の国づくりの学習において歴史的事象やその時代を象徴する人物とのあいから、人物の行為のわけや願いを調べ、自分なりに価値判断をしていくことが大切であることを学んできている。また、長い歴史の中で、先人たちの働きつながりによって現在の自分たちの生活が成り立っていることをとらえてきている。さらに、学び方の面においては、社会的事象に対する自分の考えに応じて、調査・見学等の体験的活動やインターネットを活用した追究活動、調べたことを絵や図で表した表現活動を経験してきた。
- 本小単元は、日本が国力を高め、西欧諸外国に追いつき追い越そうとした日本の政策や、その中心となった人物について、調べることを通して、日本が条約改正を中心として、様々な政策によって近代化の道を行ってきたことや、その過程において国内外に大きな影響を与えてきたことをとらさせようとするものである。明治政府の条約改正への歩みは、1871年の岩倉使節団の欧米派遣に始まり、井上外相の欧化政策(鹿鳴館外交)、大隈外相の条約改正交渉など、歴代の外務大臣が欧米諸国を相手に努力を続けてきたが、どれも失敗に終わっていた。このような過程を経てようやく1894年、陸奥宗光外相がイギリスとの間に「日英新通商条約」を結び、治外法権の廃止に成功した。このような条約改正の歩みから、条約改正に成功したわけについて子どもたちに大きな驚きや疑問をもたせることができる。また、条約改正の背景には、当時の国民の不満と欧米諸国の強さとの狭間で思い悩んだ陸奥宗光の考えがあったであろう。陸奥宗光を中心に追究させることで、子どもたちは、当時の歴史的背景をもとに、国民の願いや明治政府の近代化政策、対外関係を総合的にとらえていくことが可能になる。このように、陸奥宗光と条約改正を取り上げ、日清・日露戦争後の影響について追究していくことは、その時代を必死に生きた人間の生き方や時代背景をとらえることができ、自分の生き方を考えることができる。
- 本小単元の指導にあたっては、つかむ段階では、治外法権の不合理さを情動的に理解させるために、ノルマントン号事件の絵に救助されなかった乗客や当時の国民の気持ちを吹き出しに書いて考えさせる。学習問題については、明治の始めから条約改正交渉の内容や方法、失敗した理由などを理解させるために、条約改正の歩みを年表にして提示し、「陸奥宗光は、なぜ治外法権を廃止させることができたのだろうか」をつくらせたい。さぐる段階では、陸奥宗光の行為について、根拠を明らかにした表現物をつくるために、子どもの考えに沿った資料提示や考えを整理することができるような学習相談の場を確保する。調べた後の交流活動では、それぞれの考えを支える事実が多く出てくると思われる。そこで、それぞれの考えを関連付ける活動をおこない、最初の交渉相手にイギリスを選んだ陸奥宗光の国際的な視野の広さに気付かせていきたい。まとめる段階では、日清・日露戦争について調べ、本当の意味で高まったと言えるのかどうかを考えさせるために、東郷平八郎と与謝野晶子の考え方をもとに話し合わせ、子どもたちの考えを見直させていきたい。

3. 小単元の目標

- 条約改正のための交渉や日清・日露戦争の影響について意欲的に調べ、当時の人々の働きに共感することができる。 (関心・意欲・態度)
- 条約改正ができたわけや日清・日露戦争の影響について当時の時代背景や、人々の考え方など、様々な観点から多面的に考え、友達に伝えたり話し合ったりすることができる。 (思考・判断・表現)
- 条約改正できたわけについて、資料収集などの調査活動を行い、考えたことをまとめる事ができる。 (観察・資料活用の技能)
- 条約改正のための交渉や日本の近代化、日清・日露戦争により、我が国の国力が充実し、日本の国際的地位が向上したことを理解することができる。 (知識・理解)

4. 指導計画 (全 11 時間)

段階	配時	主な学習活動と内容	指導上の留意点と教師の支援
つかむ ／さぐる	2 ① △ 本時 ▽	<p>1. ノルマントン号事件や治外法権の廃止の年表について調べ、学習問題をつくり、予想を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ノルマントン号事件について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本人全員が死亡 ・イギリス船長は、軽い罪 ・条約改正を求める国民の声が高まった ○ 治外法権廃止までの年表から学習問題をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉使節団…失敗 ・陸奥宗光…治外法権の廃止に成功 <p><学習問題></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">陸奥宗光は、なぜ治外法権を廃止させることができたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 治外法権を認めたことに気付かせるために、外国と結んだ不平等条約を想起させる。 ○ 陸奥宗光が治外法権廃止を成功させたことに疑問をもたせるために、条約改正交渉などが分かる年表を提示する。 ○ 学習問題を調べていく視点をもたせるために、条約改正交渉の事例をあげ、陸奥宗光はなぜ治外法権廃止に成功したか調べていくための明確な課題として、武力・文化・産業の3つの視点に気付かせるようにする。
	① 3 ① ② 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題に対する考えを話し合い、調べる視点を考える。(調べる視点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 武力…朝鮮との不平等条約,日清戦争 ・ 文化…文明開化, 憲法制定と国会開設,鹿鳴館の建設 ・ 産業…軽工業の発展 <p>2. 学習問題に対する考えに沿って調べ、調べたことをもとに中間交流会を行う。</p> <p>① (1) 自分の考えの根拠について調べ、考えを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が考えた表現物の根拠となる事実を集める。 ○ 集めた事実を根拠に陸奥宗光の行動のわけについてフリップに表し、考えの違う友達に伝えるための表現方法を考える。 <p>② (2) 自分たちの作った表現物をもとに中間交流会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちのグループの主張点を明らかにする。 ○ 考え方の違うグループへの質問や意見を明らかにする。 ○ 友達からの質問や指摘をもとに自分たちの考えを見直す。 <p>3. 自分の考えに沿って作った表現物をもとに、学習問題について話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>A 国内を納得させる内容</p> <p>政府や国民が納得するような(内容)改正案を考えたから</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全面对等改正案 ・ 外国人の裁判官は雇わず, 日本人が裁判する。 <p>条約改正の交渉をするための条件を整えた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>B 外国を納得させる内容</p> <p>外国に日本の文化が進んできたことを認めさせたから</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 富国強兵 ○ 文明開化 ○ 産業国 <p>外国が納得するような交換条件を考えた。</p> </div> </div> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">陸奥宗光は、国民が納得できる内容(全面对等改正案)にし、イギリスとロシアの関係に目を付け、交渉をうまく進めていったから、条約改正に成功した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの表現物をもとに明らかになった違う考えのグループへの意見や質問、それに対する自分たちの答えをあらかじめ準備し、話し合いが活発になるようにする。 ○ それぞれの考えを、資料を指し示し、それを根拠にして発言できるように、自由に動けるような学習形態にする。 ○ 陸奥宗光の国際的な視野の広さに気付かせるため、当時の国際情勢が分かる世界地図を提示し日本と不平等条約を結んだ5カ国との関係を考えさせる発問をする

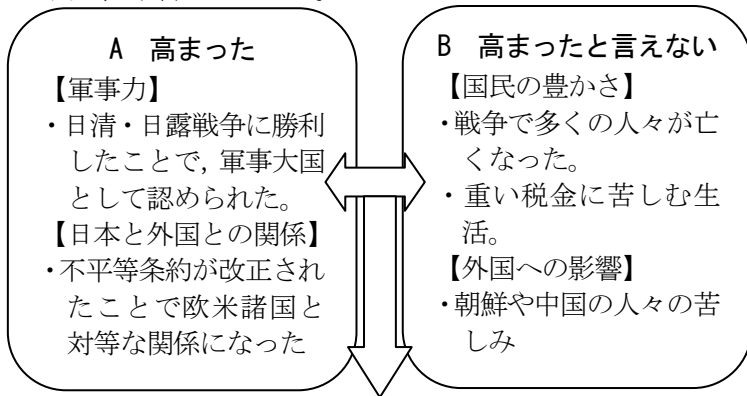
3 4. 日清・日露戦争について調べ話し合い、新たな課題をつかむ。
(1) 日清・日露戦争について調べる。

- ① ○ 日清戦争(1894年)について話し合う。
 - ・ 朝鮮をめぐる清と日本が戦った。
 - ・ 戦争に勝って、領土と賠償金を得た。
- ② ○ 日露戦争(1904年)について話し合う。
 - ・ 満州と朝鮮をめぐるロシアと日本が戦った。
 - ・ 日本海海戦で、東郷平八郎が活躍した。

〈学習問題2〉日露戦争の後、日本の国力は、本当に高まったと言えるのだろうか。

2 5. 戦争の後、日本の国力が本当に高まったと言えるのかどうか、判断したことをもとに話し合う。

- ① (1) 東郷平八郎と与謝野晶子の考えをもとに、根拠のある自分の考えをつくる。
- ① (2) 考えを出し合い、条約改正と日清・日露戦争についての考えを高め、学習をまとめる。



条約改正や2つの戦争によって日本の国際的地位が向上し国力が高まったと言えるが、一人一人の国民の暮らしを考えると、本当の意味では高まったとは言えない。

○ 日清・日露戦争について関心をもたせるために、2つの戦争に関する風刺画を提示する。

○ それぞれの戦争の原因が、アジアへの勢力拡大にあったことをとらえさせる。

○ 新たな課題に対する自分の考えをもたせるために、これまでの学習やその当時の考え方のモデルとして、東郷平八郎と与謝野晶子という2人の人物を提示する。

○ 日露戦争が果たした意味について、考えを深めさせるため、当時、戦争に反対する声をあげていた人々の考えを提示したり、郷土史家にその当時の国民の暮らしを聞いたDVDを見たりする。

5. 本時目標

- 治外法権が結ばれた背景や年表から、陸奥宗光が治外法権の廃止できた理由について予想を書いたり、表現したりすることができる。(思考・判断・表現)
- 治外法権の廃止について関心をもち、陸奥宗光が治外法権を廃止できた理由について調べる意欲を持つことができる。(関心・意欲・態度)

6. 本時学習にあたって

前時までには子どもたちは、西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允を中心とする明治政府の新しい国づくりを学んできている。また、江戸時代の日本橋付近と明治初頭の2枚の映像資料から近代化に向かっている日本について学習してきた。

そこで本時では、治外法権の不合理性を心情的に理解させるために、ノルマントン号事件の風刺画に救助されなかった乗客や当時のイギリス船長の気持ちを吹き出しに書いて考えさせる。次に、治外法権廃止までの年表を提示し、1894年陸奥宗光外相の際に治外法権が廃止されたことから、学習問題「陸奥宗光は、なぜ治外法権を廃止させることができたのだろうか」をつくらせたい。次に、治外法権が結ばれた背景や年表の内容をもとに治外法権を廃止しようとする動きを確認し、学習問題の予想を考えさせたい。

そのために、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

(1) ノルマントン号事件の風刺画の提示

- ① この風刺画は人の表情やしぐさを読み取らせることから、子どもたちは事件の概要に気付き、さらに事件の原因を考え、治外法権が結ばれていたことを振り返ることができるようにする。そうすることで、「どうしてこんなことになったのだろうか」という疑問をもたせ、「なんとかしなければ」という子どもなりの人道的な感情を高まらせて、当時日本が国際的に弱い立場であるという時代背景を改めてつかませる。
- ② 「なぜ、治外法権を結ばなければならなかったのか」と、問いかけて当時の日本の国際的な弱い立場だったとういうことを前單元までの学習を想起して考えることができるようにする。この発問は、学習問題の答えを予想し追究するときの伏線となる事実に気付かせる為のものである。この時、教科書や資料集を使って、自分の考えを述べるように促し、資料で考えるという態度を養いたい。選択できる資料は次のようなものが考えられる。
 - ・ 外国の強い態度におされたから(教科書P73)
 - ・ 西洋に追いついていない、富国強兵になってないから(教科書P78)
 - ・ 武力・文化・産業のおくれがあったから

(2) 治外法権廃止までの年表の提示

- ① 治外法権がこのあとどうなるか予想させながら、廃止までの経緯を簡潔に記した年表を提示する。そこで、1894年に陸奥宗光が治外法権を廃止することができたという事実に気付かせ学習問題をつくらせる。
- ② 「なぜ、陸奥宗光は治外法権を廃止することができたのだろうか」と、問いかけて、年表をもとに予想を考えさせる。年表のそれまでの交渉の内容から気付いたことを書かせ、調べていく視点をつくらせる。年表の読み取りの後、疑問に思ったことを話し合い、どのような事をして武力・文化・産業の面で近代化を進めてきたのか調べていくことを子ども達にとらせさせる。

7. 本時の展開

主な学習活動と内容 ※教師の支援	子どもの姿
<p>1. ノルマントン号事件や治外法権廃止まで歩みについて調べ、条約改正について調べる学習問題をつくる。</p> <p>(1) 本時のめあてを確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて ノルマントン号事件と年表をもとに学習問題をたてよう</p> </div> <p>(2) ノルマントン号事件について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人全員が死亡 ・ イギリス船長は、軽い罪 ・ 条約改正を求める国民の声が高まった <p>※ 不平等条約にを結ぶきっかけになった理由を教科書をもとに確認させる。</p> <p>(3) 治外法権廃止までの年表をもとに学習問題をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩倉使節団, 井上馨, 大隈重信の交渉 ・ 陸奥宗光…治外法権の廃止に成功 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><学習問題> 陸奥宗光は、なぜ治外法権を廃止させることができたのだろう。</p> </div> <p>2. なぜ治外法権を廃止できたのか、年表をもとに予想を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年表の治外法権廃止までの内容をもとに、なぜ不平等条約が改正できたのか予想と根拠を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿鳴館の建設 …… 文化 ・ 軽工業の発展 …… 産業 ・ 日清戦争 …… 武力 ・ 文明開化 …… 文化・産業 ・ 憲法制定と国会開設 …… 文化 ・ 何度も繰り返し交渉が行われている <p>※ これまでの条約改正交渉の失敗をもとに、陸奥宗光が考えたと思われる内容や方法を予想するように助言する。</p> <p>3. 「今日の学習で」を書き、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えの変容について <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの考えをもとに変わったことなど ○ 自分が調べていくことについて 	<p>子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ノルマントン号でイギリス人は助かって、日本人が一人も助からなかったのはひどい。 ○ 何でこんな不平等な条約を結んだのだろう。 ○ きっと治外法権を廃止するために努力しているに違いない。 ○ 陸奥宗光さんが治外法権を廃止しているぞ。 ○ 外国に武力や文化・産業が発展ことを認めさせたのではないかな。 ○ 陸奥宗光さんが何度も粘り強く交渉したのではないかな。 ○ 今までと違う交渉の仕方をしたのではないかな。 ○ 陸奥宗光が交渉する際の日本の武力や文化・産業の発展はどうだったのか調べたい。 ○ きっと陸奥宗光はこれまでの交渉とは内容や方法が違ったことをしたからに違いない。